

會報



日本山岳會

143 號

第三回國民體育大會
參加準備會

九月十八日——十九日 三ッ峠

第三回國體の準備會として東京山梨兩支部を代表し三ッ峠で集りを開いた。今度の國體での登山の實踐は久住山で行はれることになつてをり、他の競技團體とは異つて直ちに勝敗を決することは出来ない事情から集團登山の形式をとりながら岳人相互の練習をはかることになつてゐる。この三ッ峠豫選會も全く同じ事情から東京都山梨縣の兩支部が共同、岩登のゲレンデたる三ッ峠に集つて出場者を豫選することとなつた譯である。

山梨支部の贈入により山頂小屋二棟を借り切り山梨からは今井三井、百瀬の三氏以下二十餘名、東京からは入澤、濱野、關根常務理事外川森、今井兩夫人その他二十五名が折柄の満月を仰いで頂上小屋に集合、まず十八日夜は全員一堂に會して熱心に山岳會の進路から山岳人の歩み方に至る迄討議

が交はされ、深更迄座談會が續けられた。

翌十九日は數ヶ班に分れて岩登の練習に向ひ各リーダー指導の下に有意義な練習を行ひ大部分は河口湖をまはつて下山、山梨の方々及海野、新村、川森氏等は更に滞在を延して練習を續け無事行事を終了した。

第一〇五回小集會

十月八日 午後五時 岸體育館

藤島敏男氏滞歐作品をアレンヂした歐洲アルプスのスライドを、同氏獨特の巧みな説明を聞きながら觀賞、終つて小憩後村松巖氏の一冬山の裝備について一講演あり九時散會した。スライドは仲々優秀で居ながら歐洲アルプスの秀麗さを満喫し、語り手も再び歸へらぬ幸多き日を回想するかのやうであつた。講演は主としてスキー及び屬品の説明に費されたが得る處少くなかつた。唯參加者の少なかつたのを遺憾とする。

(世話人村井米子)

東京都山岳會(東京支部)主催で今後毎月一回小集會を開きます。都内及近縣の方へはその都度御通知しますから是非御出席下さい。

尾瀬行(東京都山岳會)

十月十六日午前七時發、日本交通公社主催に參加して今井喜美子氏等十名出發。沼田より大清水まで特別バス、長藏小倉泊。十七日燧岳登山、紅葉は既に晩し、尾瀬原

泊。十八日夜來の雨が雪になつた原を通り鳩待峠路の紅葉に新雪の美觀を賞でつ下山。

第三回國民體育大會報告

十月二十九日午後一時入場式は新設の平和台競技場で行はれた。

一、全國地區代表者會議

三十日午前九時九九大工學部講堂で開催。開會の辭と共に山田光男理事長(大倉山岳部會)が述べた経過報告の中で登山部門は他のスポーツ部門と比較し經費の配分、參加人員等に制限をうけ並々ならぬ障礙に當面したと語る言葉の中に、地元福岡山岳連盟各位の嘗められた苦勞の程が察せられた。會議は地元日鐵山岳會橋本三八氏を万場一致で議長に推し、松方三郎氏より敗戦後の混迷時代に日本山岳會が體育會に加盟し山岳部門を擔當して以來の考へ方として「今後の日本の登山界は廣い教養、高い技術的訓練と廣い基礎の上に立つた民族の深きをもつた教養がなければ世界に伍することが出来ない。世界的水準の登山は世間で考へる程狭い技術的範圍でなく廣い基礎が必要だ。十人の精銳を生む爲に何千人の優れた登山家が後から後から續いて出なければならぬ。アイガシ、アルバータ、ナンダゴット等の世界的業績がぼつとぼつとと斷ちきれてあるに過ぎないのは基礎的なものが缺けてゐるからだ。また山を護るためにも多數の精銳分子だけでは力が足りない。

廣い山の愛好者を抱擁してゆく必要がある。體育大會に於ける登山部門の發言力もまた基礎的な組織の有無が關係する。スポーツ團體たる體育協會内では世界的水準を目標とする峻烈な訓練といふ他の一つの使命があるが併せて日本の山に關心をもつ人が誰でも參加出来る組織がほしい」と述べた。之に對し各地代表からは地區の現狀報告や意見、質問がなされたが地區代表の間には廣く山岳人を包括した連盟と各地連盟を集めた全國連合會の組織を欲する意見が多かつた。

これについて松方氏より英國山岳會と獨逸山岳會と先進國に於ける二つの對蹠的な組織を説明し日本には特有の形で山の團體が出来てよい。全國的組織を考へる場合は團體を單位として連盟をつくりその中心の連合體をつくるのが各地代表の意に沿ふと思ふと述べ各地區一名の代表によつて連合體の結成を協議した結果小委員を定めその具體化をすゝめることとなつた

二、表彰規定と審議

著しい登山の行動並に研究を表彰することを企圖したものであるが未だ機熟さず報告も十分のため表彰規定と委員會並に報告形式を定め、將來に譲ることとして各代表の諒承を得、被表彰者の講演としてではなく注目すべき登山活動の記念講演を行つた。

三、講演會

十月廿日午後一時半 於九大講堂・挨拶 福岡山岳連盟會長

・穗高屏風岩登攀

安川 寛

(夏) 山稜會

石岡繁雄

(冬)

伊藤洋平

・極地法によるベテガリ登山

村木庸益

・九州の山について

加藤敦功

四、展覽會

十月廿九日十一月三日於平和館登山の各種形式に於ける用具の使用法を通して用具と技術の變遷を展示し初歩登山者にも理解し得るよう啓蒙的に説明がなされた。廣範圍な主題を圖解と寫眞によりそれが凡て地元山岳人の献身的奉仕により自らの手に描かれ準備された驚くべき努力には敬服するものがあつた。

五、映畫會

十一月二日 平和館及松竹劇場

・富士山頂觀測所(日本ニュース)

・ナンダゴット遠征(毎日)

・山は招く(運輸省)

六、久住山中登山

九州の名山久住山(一七八八米)

の山頂目がけて四コースから各班

百一十五名の集中登山を行い、

一日午前十一時山頂を五百餘名の

全國山岳人が埋め盡した壯觀はま

づ前例のないことであらう。秋の

好晴に恵まれた九重の山々と高原

の自然美を満喫する愉しい山行で

あつたがわけても大分縣當局と沿

道の町村や部落の方々から思いも

うけぬ歡待をうけた感激は忘れ得

ぬ思い出である。大分縣がこの舉

に際し百二十万圓の經費を計上し

て各コースの指導標を完備し、山

小屋の新設修理をなした英断に敬意を表すると共に、本大会の準備及會期間を通じて盡し得ぬ献身的努力を重ね、もつて本大会を成功裡に完遂せしめた福岡支部の方々及其他關係山岳人に感謝の意を表する。

出席理事——松方、藤島、谷口、關根、山下、入澤、渡邊、村井

富士山冬山講習會

十一月二十日午後九時半新宿發
二十一日 五合目小屋に集結
二十二日 全員各パーティーに分れて登頂。

二十三日 希望者のみ小御岳御庭へ、他は午前中解散。

参加者總數二百七十名
前號に報告した冬山講習會は豫想外の申込人員のため堀田、谷口理事を中心として各パーティーの間に數回の準備會を重ねられ又十三日には明大講堂で参加者全員の準備會を開き万全を期したが稀に見る快晴とリーダー諸氏の努力、参加員の熱意によつて成功を収めることが出来た。参加者は東京及近縣のみならず遠く北は盛岡、北陸西は九州の各地方から馳せ参じ講習員としてではないが會のヴェエランも参加されて一層講習會を意義附けた。

二十一日は霧の日であつたが時折新雪の山頂を仰ぎ主力は晝過ぎ五合小屋に到着。晴れ上つた夕刻の一時を利用して小御岳へ散歩の組も幾つかみられた。二十二日は後記の數パーティーに分れ大過なく所

期の目的を達した。積雪は七合目からで平年より極めて少なく中級以上には物足らぬ感がないでもなかつたが、殆ど無風の快晴と適度の降り、のため初級の者にはかへつて適當であつた。夜間堀田、谷口兩理事より感想が述べられ晩く迄夫妻談に費された。二十三日も快晴であつたが近くに雪がないため希望者のみ御庭へ散策、大部は午前中に自由解散をして會を閉じた。會としては本講習會の成果に満足するものでなく、將來はこの經驗を生かして更に充實した此の種企てを實行する考へであるが、少數の理事のみでは決して満足な結果は得られないので今後共各位の御協力を切に望む次第である。

講習會の編成 總指導者堀田彌一同補助 谷口現吉
リーダー・上級——雪洞(酒井捷之助)イグルー(林和夫、有馬純)天幕(關根吉郎)行動(大塚博美)中級——濱野正男、海野治良、村本庸益、清水一郎、今村正二、高橋照、川森時子、今井友之助、吉田元、大山秀夫、神山務、辰沼廣吉、越智英夫、山崎安治、初級——山縣一雄、池田、眞島恒雄、佐野茂雄、望月達夫、神谷義雄、野田彌五郎、外山義夫、村井米子、關東學連——村山、藍田、船橋、廣羽リーダー以下六一名。關西學連——佐谷、徳永リーダー以下四三名。特別参加者——神谷恭、藤島敏男、網倉志朗。又、月原俊二、磯野三郎、高橋達郎、丸山荷一、百瀬舜太郎の諸氏も講習員として

参加。荷橋田清美(山梨觀光課)竹節作太(毎日)兩氏の参加があつた。關西學連参加者に事故一名を出したが幸ひ大事に到らずとも月原氏の發議で講習員よりお見舞金として計三千七百五十圓を差上げることにあつたが、右に對し關西大學山岳部より鄭重な禮狀に接し又本會としも講習會参加各位に深謝する次第である。終りに本企ては當初より毎日新聞社の後援を得報道其他に至大な便を得たことを附記する。

富士講習會に参加して

永年山を歩いてゐながら、富士山の本當の良さが解つて來たのはごく近年のことである。今年も六月はじめと、十月中旬に小御岳から御庭附近に遊び、新緑と紅葉季の素晴らしい景觀と夏には見られない静けさを心ゆくばかり味わつてからは一層富士山により多くのあぐれを有つやうになつた。折柄今回催された冬山講習會である。リーダーの顔ぶれを見ると、いづれも本邦登山界の選り抜である。此好機を何條見逃すことが出来よう。早速参加を希望したのであつた。併しまもなく六〇歳を迎えやうといふ老兵の飛入には幹部の方々を不沙驚かせた様で隊の編成其他ろい、特別の御配慮を煩はした事は洵に恐縮に堪えない。殊に冬山に就て無經驗な私は「盲蛇に怖じず」の譬へで濱野サンの指揮せらるゝ中級班に屬し全く思慮なく吉田大澤の難コースを登りつ

め無事登頂したのであるが途中濱野サン始め海野サン其他リーダーの方々から、アイゼンのはき方から教はり、踏み方、トラバースのやり方、ビッケルの用い方、スリッパした時の停止法等一々實地に範を示して御指導に與かつたことは眞に有難いことであつた。この御蔭でこそ彼の新雪に浮められた靈峯の頂きに感激の足跡を刻むことが出来たのであつて、登降共にリーダー諸君を随分ハラ／＼させたことと思ふ。洵に感謝の言葉がないと同時に氷雪の山に對する心

山日記はお求めになりましたか？

會員各位は百六十円ですから事務所か、お茶の水の茗溪堂でお早くお求め下さい。

構えの如何に慎重を要するかを充分に反省して此稿を了りたい。追而幹部の方々には随分御面倒な仕事で御氣の毒であるが、今後斯様な行事を越くも年二三回位やつて頂き度いと希つておきたい。(神谷 恭)

日本山岳會編

山日記

1949版

編輯委員

林 和 夫
千谷壯之助
金 坂 一 郎
谷 口 現 吉
津 村 利 男
村 田 顯 勉
神 山

登山の注意 高山植物に就て
冬期登山 山岳語彙
危急時對策 アジアの高峰一覽表
地圖使用上の注意 本邦主要峠高度表
山岳氣象 概念圖
裝備及食糧 山小屋山案内
登山用品表 地圖區畫表

A6・320頁

定價180圓

茗溪堂書店

省線お茶の水驛前

全國山岳連盟の問題

福岡の國民體育大會を機會に各地から集つた登山界の代表者が懇談することが出来たが、その席上登山團體の全國的の連盟組織を作ろうという氣運が強く現れたので、この問題實現のため小委員会を作ることに(本號一頁参照)なつたが、この小委員会は十二月十九日に第一回の打合せを行い、一應その小委員の預りて連盟結成までの準備工作にとりかゝることになった。本會としては連盟結成に反對する理由はないとの見地から次の條件の下に準備工作に参加することを十二月二日及廿日の理事會で決定した。

會費納入につきお願い

本年度の會費をまだお拂込のない方は至急御手續下さい。會の財政も決して豊かではなく、現在、出版關係は勿論展覽會、講習會等も夫々獨立の會計で賄つてゐます。會員との唯一の連絡機關である會報も財政が黒字にならねば思ふやうに出せません。右御諒承の上宜しくお願い致します。

一、連盟は個々の團體又は個人の色彩に左右されることがない、且つ總ての山岳團體がそれらの個性と傳統、主張を持ちながらそのまゝで参加しようとする組織たること。
二、日本山岳會としてはその独自の立場又は活動に支障を來さないことを條件としてこの運動に協力すること。
三、連盟結成の問題は登山界自體の問題であつて、體育協會又は國民體育大會の問題とは別個の問題たることを明確にしておくこと。

以上

會ルームは三月上旬竣工の豫定です

△圖書室再建資金募集▽

圖書室再建計畫は前々號に發表した通りであるが、經濟狀勢變化のため建築費のみで約四十七万円を要することとなつた。然し山岳圖書館とも言ふべきものは、どうしても本會の手によつて完成しなければならぬ事業である。

計畫發表以來、會員並びに會員外の山岳愛好者から寄せられた厚意は別記の額に達し感謝してゐるのであるが、建築費にさへまだはるかに及ばず、募金擔當者は大いに苦慮してゐる實情である。

十二月五日着工、同廿八日上棟式三月四日竣工と決定したので、こゝに重ねて會員諸兄の支援助力を懇請する次第である。一千名の會員が五百圓宛出して下されば、建物だけは容易に出来るのである。御申込は直接事務所或は藤島宛御送金下さるか、東京銀行本店本會名義普通預金口(二八七)へ御振込下さい。

寄附者氏名(中間報告)

五十圓 額田敏 神保信雄 猪木愛孝
一百圓 丹羽昭 川崎精雄 慈大山岳部 立大山岳部 藤野貞雄
日大山岳部 増田繁雄 橋本浩一
日立製作所松工場山岳部 藤崎定雄 仰木政次郎 大久保勲 中大山岳部 川野榮 湯淺充恭 扇山

豪夫 山崎公平

二百圓 木村誠治 北陸鐵道山岳部 慶應大學山岳部 小熊小五郎

吉田竹志

三百圓 山本忠譽 宮井英明 箕口治信 渡邊正三 原全敬

四百圓 高橋照

五百圓 米澤益二郎 黒田末子

王子製紙山岳部 赤尾好夫 西岡俊雄 新城利男 岡本信三 田口二郎 高木正孝

六百圓 九州山岳聯盟

七百圓 橋本三八

一千圓 後藤幹次 中屋建武 交野武一 谷口千吉 川森時子 網倉志朗 森いづみ 越後支部 竹節作太 猿田泰彦 丹羽三好 黒田光徳 和田正雄 日銀山岳部

ダイサン靴クリム山岳部 村井米子 木村武男 神谷恭 川喜田壯太郎 又木周夫 片桐盛之助

千五百圓 桑原武夫 織内信彦

二千圓 新島章男 長谷川傳次郎

川森円次郎 永田守 今井田研二

藤島敏男

二千二十圓 石川支部

二千四百圓 海野治良

三千圓 福澤太一 三菱重工横濱造船所山岳部

四千圓 田邊主計

五千圓 青柳篤幸 小池厚之助

目黒四郎 第一銀行山岳部 千代田銀行山岳部 三澤龍雄

一万圓 新有社 磯野計藏 松方義三郎(以下敬稱略)

六万二千五百圓 山日記印税一部

計 一八五、一七〇圓

(二十三年十二月五日現在)

河出書房の山岳雑誌

全國スキー地圖

三色刷B四裁折たゝみ式

主要幹線・スキーコース・初中上級別区分・雪質・ゲレンデ・利用交通機關・宿泊料等の最新データー スキーヤー必携圖

日本山岳會編集 價40圓 千4圓

山 岳 A5 160 頁

價160圓 千4圓

日本山岳會編集

内容豫告・ベテガリ岳(北大山岳部)南岳(早大山岳部)ハツ峯(慶應山岳部)屏風岩(伊藤洋平)・追悼——黒田孝雄(松方)塚本繁松(鈴木・田邊)小谷部全助(望月)・雜録 アルバイン——ツツ其他



1月號

12月號

スキー特集

世界の山特集

世界の山日本の山(座談會)

横・浦松・冠・松方・今西・堀田

雪質について……黒田正夫

ふぶき……谷口現吉

登攀隊員數……關根吉郎

富士山冬期講習會レポート

隨筆◇田邊主計・田部重治

渡邊公平・四家文子・島田巽

ツニアコース紹介

——遊峠・白馬・藏王——

今の中ならバツクナンバーもあります

御註文先

東京都千代田區小川町三ノ八 河出書房

「山日記」

一九四九年版(第14輯)

大變遷刊してをりました「山日記」は別記の内容で發賣中です。部数が少いため御希望の會員各位へは漏れなくお頒ちしたいので至急御求め下さい。定價は一八〇円ですが本會員に限り一六〇円です。送料四十五円を加算し小爲替又は送金小切手で御申込下さい。都内在住者はなるべく本會事務所又は茗溪堂書店で會員證呈示の上お求め下さい。

「山」を読んで下さい

この前の會報に廣告した「山」は日本山岳會が新しく河出書房と共同編集で月刊誌としての務めを果そうとしているものです。日本山岳會は別に機關誌「山岳」をも

ち四十年を越す傳統を守つていくつもりですが、新しく登山の健全な普及の責任もある關係で一人でも多くの人に読んで貰いたい機關誌をもつ必要があります。「山」はこのような意圖の下に編集されているつもりです。今までの日本山岳會の機關誌とは幾分趣を異にしていますが、この意味を十分御理解下さつて、一人でも多くの讀者が出来るよう山に關心をもつ友人知人に御宣傳をお願いします。又各地方にも廣く讀者をもちたい希望があるので、各地の新しく且正確なニュースなり、登山紀行を編集部宛お送り下さい。

まだ發行部數も少いため、各地

方にはよく行き渉らないことがあるかも知れません。それで、なるべく支部を通じ、或は各地の書店を通じ、本部或は河出書房宛申込んで下さればお送りします。會員には二割引でお送り出来ることになつています。

「山岳」復刊第一號

「山岳」四三年一號(内容前號通り)が發刊されました。體協内日本山岳會にお出下されば二割引、一三〇円でお頒ち致します。主事福井までお申込下さい。

「山岳」も各支部に送つてありますから地方の會員は支部へお申出下さい。

次號は別記内容を以て目下組版中です。

圖書係からのお願ひ

▲虎の門に在つた圖書室の焼失後、淋しい思いをしておりますが、今度クラブルーム兼圖書室の再建を機に山の藏書の充實を計りたいと思ひます。現在では仲々困難なことです。将来の圖書室を考へると又樂しみなことです。藏書の寄贈申込も既に二、三の方からあつて有難く思ひます。新刊圖書の購入は今の會の財政では重荷なので會員で本を著した方は何卒會へ一部御寄贈下さい。署名をして下されば一層結構です。

▲會で虎の門にあつたJAC用の山の記事のクラブブックを作りたいと思ひます。日本經濟、讀

賣、毎日、東京、ニホンタイムズは私が見ておりますからそれ以外で何かよい記事を御覽の方は切つておいて下さい。(田邊主計)

名譽會員小島烏水氏逝く

かねて病臥加療中の本會名譽會員舊會長、發起人小島烏水氏(會員番號二番)は、十二月十三日夜半阿佐ヶ谷の自邸において永眠された。享年七十六歳。氏はたゞに本會の生みの親であるばかりでなく實に五十餘年の長きに亘り、登山の實踐に於て又その名著「日本アルプス」を初め多くの著書及文章を通じ本邦登山界に貢獻され、更に浮世繪の研究に於ても一家をなし、正金銀行勤務の餘暇になされたその文化的業績は正に餘人の到底追隨を許さないものがあつた。本會は茲に衷心より哀悼の意を表するものである。告別式は十五日午後自邸にて行はれ、會より靈前に生花一對を捧げ、高野、中村、島田、藤島、松方、神谷氏等が参列した。編者は偶々十二月十一日午後新刊の「山岳」を御届けしたが既に内容はよく見られなかつたものと思ふ。收載の一文が絶筆となつた譯で感懐深い。(御遺族——杉並區阿佐ヶ谷三ノ五〇〇 小島孝太郎)

昭和廿四年一月一日發行

東京都千代田區
神田駿河台四ノ六

發行所 社團 日本山岳會

電話(一九五九番)體育會
神田(三二〇八番)體育會

東京都千代田區神田錦町二ノ九
印刷所 集美堂印刷所

製作

天幕 ルックサック シュラフサック
ウインドヤッケ 登山服 スパッツ
その他

販賣

ビッケル アイゼン カラビナ ビトン
ハンマー その他の用具



片桐盛之助 東京連終所
長野縣下伊那郡
喬木村阿島上町
電話小石川四七五四番

人アルプスと

著 松方三郎

國旗を監獄の屋上に掲げて囚人の種切れを報じる國がある。それは架空な理想郷でも、遠い夢の國でもない山を心から愛し、郷土の自然を何よりも大切に人達によつて造られて居るスイスの事である。本書は登山記録集ではない。山に打ち込んだ人とは、又その人達によつて作り上げられた社會とはどの様なものか等を、著者獨特の達文を以て、著者の親しく見開した、人の餘り知らない極めて豊富な資料を存分に岳長抜つて、新に興味深く描き出したものである。岳人諸山事兄の味讀を望むは云ふ迄でないが、一般特に青少年諸日會君に此の讀を是非勸めて頂き度い。(初版は奥附に著者の簡單なサインがある)

十二月初旬刊 B6 價三二〇円 千二十五円

山行楨有恒著

アルパレタ初登
頂記録ヲ増補ス
價三三〇円 千二十五

謹告 配本機構が悪くて、御入手を困難にして居ますから、特に地方の方は直接本社に御注文下さい。尚ほ數冊纏めて御申越下さいますと十五冊位迄は送料(書型)五十五円位で済みます。

東京都千代田區芝田村町
2の9 川長ビル
岡書院
電話銀座2723